

21 Community

NHKを監視・激励する視聴者コミュニティ

eメール <http://goo.gl/v9xa>

監激コム HP <http://goo.gl/g2Lr>

入会フォーム <http://goo.gl/IEfn>

↑↑ 年会費 1000 円 FAX 059-222-3165

「坂の上の雲」全国ネット <http://goo.gl/DgNV>

「アナログ放送終了予定日」まであと 250 日余り

となりました。[来年 7/24 日 (実際には 6/30)]

「地デジ難民」の大量発生が憂慮される中、政府と放送業界は「国策としてのアナログ放送終了は延期しない」「放送局にデジタルとアナログの同時放送を続ける体力があるのか」(原口前総務相)として、強行の構えです。

新聞各社は問題点を指摘しながらも総務省の恣意的な「地デジ普及率 83.8%」 <http://goo.gl/A3kA> を論評抜きに引用し「アナログ停波延期」の提言をしたのは愛媛新聞(2010/7/24)、東京新聞(2010/2/26)程度に留まりました。

7月17日には「地上デジタル放送完全移行の延期と現行アナログ放送停止の延期を求める」記者会見が東京で開かれ、清水英夫氏(青山学院大学名誉教授)は「いまや全世帯の20%くらいは平均年収130万円くらいで、デジタルテレビやアンテナの購入は過重な負担となる。経済的な理由でデジタルテレビが購入できないということは現代の情報社会で生きていけないということであり、『デジタル棄民』が生まれるおそれがある」と警告しました。

「地デジ化にともなうスクールニューディール施策で大手量販店が落札した。もっと中小業者や市民を助ける施策に」「共聴施設からアンテナ直接受信に変えたらこれまで見られていたチャンネルが入らなくなった」

(家電店主)

「地デジ化はこのまま進めれば『地デジ難民』が大量に生まれる。地デジ化の時期を延期すべき」(砂川浩慶准教授)

「地デジ化とともにテレビ番組の質を向上させる議論をしたいが、予算が削られ、現場は苦しんでいる」「地デジ難民が大量に現れれば広告収入が減少しさら

に予算が削減される」(朝日放送労組)と問題が指摘された。

一般参加者からは、「そもそもなぜ一方的に地デジ化され、テレビを買い換えなければならないのか」「デジタル化がなぜ必要なのか素朴に疑問に思う」「地デジ化でうちはテレビが映らなくなった。誰に相談したらいいのかわからない」「地デジ以前にテレビ番組の質をもっと良いものにしてほしい」「弱者に対する視点が足りない」

「お笑いタレントの番組に文化など感じられない」「日本のテレビ番組の中味はこれでよいのか。人間の本質にかかわる言語、文化、教養を大切にすべきだ」といった行政や放送局に対する厳しい意見が相次いだ。

参考: 民放労連ニュース <http://goo.gl/txtO>

京都民報Web 京都民報 Web <http://goo.gl/Udf7>

放送レポート 226号(2010.9.10) <http://goo.gl/rNZH>



「地デジ難民作るな！」

アナログ停波 1 年前集会 in 京都

「地デジ難民を作るな! 地上波テレビデジタル放送完全移行 1 年前集会」(メディア総研、民放労連、京都放送労組らが共催)が 7/25 日、京都市内で開かれ、約 150 人が参加した。

集会はメディア総研の岩崎貞明事務局長がコーディネーターをつとめシンポジウム形式で、各方面の 5 人のパネリストが問題提起を行うとともに、会場からも発言を求め、デジタル問題の現状やこれからのテレビのあり方について意見交換を行った。

パネリストからは

「政府の発表よりも地デジ化できていない世帯は多いと思われる。共聴施設や貧しい世帯などがテレビを見られる体制をとらなければならない」「浸透度調査では 80 歳以上が調査対象から外されている」

(民放労連 碓氷氏)

「受信障害共聴施設を持つマンション管理者が地デジの高額な費用や『ビル陰』になっている住民への対応に頭を悩ませている」(マンション住民)

地上デジタル放送完全移行の延期と現行アナログ放送停止の延期を求める提言 (07/17)

MAMO's Site <http://goo.gl/y3Ee>

2011 年 7 月 24 日の地上デジタル放送(以下「地デジ」)への完全移行・現行アナログ放送の全面停止まで、

あと 1 年となりました。難しい経済状況のなか、送信側である放送局の準備は整いつつあり、NHKと民間放送局の多大な努力と貢献を、まず称えたいと思います。

しかしながら、受信側である視聴者の準備、つまり家庭や事業所(会社をはじめ店、病院、学校、宿泊施設など、テレビが置かれるすべての組

織や団体)の準備が、まだ整っていません。

地デジ開始前、わが国にはアナログ対応テレビ受像機が 1 億 2000~3000 万台ありました。2011 年 7 月までに見込まれるテレビ受像機の出荷台数累計は 7000 万台前後ですから、テレビの絶対数が少なすぎます。所得が高い世帯はテレビを複数台

購入し、事業所も 1000 万のオーダーで購入することを、忘れてはなりません。

地デジ対応テレビ受像機の世帯普及率は、調査手法から過大な見積もりと指摘せざるをえない総務省の調査によっても、2010 年 3 月段階で約 75%です。3 月の内閣府消費動向調査によると、一般世帯の薄型テレビ（地デジ非対応を含む）の普及率は 69.2%ですから、単身世帯 1000 万の存在を考えれば、地デジ普及率はさらに低くなります。2011 年 7 月段階における地デジ対応テレビの世帯普及率は、9 割に満たない恐れが大きいでしょう。

また、総務省のデータによれば、受信障害対策共聴施設で「地デジ対応が終了した割合」は 2010 年 3 月段階で 5 割未満。集合住宅共聴施設のそれは 8 割近くですが、南関東（東京・千葉・埼玉・神奈川）は 6 割未満で、未届け施設の正確な数すら不明。辺地共聴施設のそれは約 6 割。これらを 2011 年 7 月までに 100% 近い水準に引き上げることは、まったく不可能です。

したがって、2011 年 7 月 24 日に地上デジタル放送に完全移行し、現行アナログ放送を終了すると、テレビを見ることができない家庭や事業所が、数百万という規模で発生する恐れがあります。

テレビは、人びとに憩いや娯楽を提供するだけでなく、人びとの生活に必要な不可欠な情報を低コストで広く伝えるきわめて重要なライフラインです。それが全家庭に行きわたらないまま現行放送を打ち切れば、情報格差の拡大どころか、人びとの生命と安全が大きく脅かされてしまいます。台風や地震が襲うとき 100 万単位の世帯にテレビがない事態を、私たちは決して認めることができません。

そこで私たちは、**予定期日から 2～3 年をメドに地上デジタル放送への完全移行を延期すること、および現行アナログ放送停止を延期すること**を提言し、あわせて計画の真摯な見直しを求めます。

10 万円以上といった地デジのコスト負担が過重な所得の比較的低い層はもちろんのこと、地デジ対応が済

まない世帯から受信料を 1 円たりとも徴収できない NHK、テレビの絶対数が 3 分の 2 前後に減って大幅な減収が見込まれる民間放送局、期限までに実現不可能な計画をむりやり推進するため年に **900 億円近い国費を投入する国・総務省も、地デジ移行・アナログ停止を 2～3 年先延ばしにするほうが、メリットが大きいはず**です。

メディアのみなさんには、地デジ普及の正確な現状を報道し、視聴者・国民はもとより放送局や放送を所管する官庁にとって、もっとも望ましい地デジ移行・アナログ停止計画とはどのようなものかについての議論を、さらに広げてくださることを願っています。 2010 年 7 月 17 日



【発起人】

坂本 衛 (ジャーナリスト)

清水英夫

(青山学院大学名誉教授、弁護士)

砂川浩慶 (立教大学社会学部准教授)

原 寿雄 (元共同通信社編集主幹)

地デジ完全移行／現行アナログ放送停止の延期を求める

「10 の根拠」

全文は→ <http://goo.gl/uuZ0>

【1】地上デジタル放送対応テレビの絶対数が足りない。

(地デジ対応テレビの累計出荷台数は 2010 年 5 月段階で 4923 万台、2011 年 7 月段階では 7000 万台前後と見込まれる。これは、地デジ開始前に日本にあったアナログ対応テレビ 1 億 2000 万～3000 万台の半分強にすぎない。この台数は、多くの家庭で台所、年寄り部屋、子ども部屋、寝室などに置かれた 2 台目以降のテレビがなくなることを意味し、...)

【2】80%以上とされる地上デジタル放送の世帯普及率 (総務省発表)

は、実態と大きくかけ離れている。

(浸透度調査は所得が高い層に大きく偏っており...都道府県によってサンプル数が大きく異なる....「調査に協力的なグループ」だけをピックアップした調査...現時点での確からしい世帯普及率は、せいぜい 60%台。根拠は次の通り.....)

【3】所得が比較的低い層の地上デジタル放送への対応が間に合わない。(富山 88.8%と最下位の沖縄 65.9%で 23 ポイントと大きな差)

【4】主として低所得者向けの簡易チューナー普及策がうまくいっていない。

【5】集合住宅、都市難視聴地域、山間部 (いわゆる「辺地」) などの共聴受信施設の地上デジタル放送への対応が大幅に遅れている。

【6】とりわけ南関東地区 (人口が多い東京・千葉・埼玉・神奈川) で地上デジタル放送への対応が大幅に遅れている。

【7】関東広域圏における地上デジタル放送の必須条件とされるスカイ

ツリー (東京・墨田区の 600m 級電波塔) は開業が 2012 年春、フルパワー送信が 2012 年暮れとされ、2011 年 7 月に間に合わない。(スカイツリー方向にアンテナの向きを変える必要あり)

【8】ケーブルテレビのアナログ再送信は、地上デジタル放送に逆行する施策であって、ムダである。

【9】2011 年 7 月に地デジ完全移行・アナログ停波を強行するとき NHK、民間放送局、総務省にかかるコスト (収入減を含む) よりも、延期したときかかるコストのほうが小さいと見込まれ、放送局や国 (総務省) にとってのメリットが大きい。

(「NHK のサイマル放送コストは年 60 億円」..民間放送局も系列ごとに 15～30 億円程度)

【10】いわゆる電波の「跡地利用」は、延期によって、新規事業の再考時間が生まれる。

写真：レイバーネット 日本



虚構の「福沢諭吉」論と「明るい明治」論を撃つ

韓国「強制併合」から 100 年
安川寿之輔・名古屋大学名誉教授に聞く

歴史を歪めた丸山眞男と司馬遼太郎の「罪」

戦後のアカデミズムに君臨した丸山眞男と「国民作家」の司馬遼太郎。この二人による歴史偽造が厳しく問われなければならない。

----今年八月で、韓国強制併合一〇〇年を迎えます。しかし、いまだ朝鮮半島植民地化・アジア侵略の歴史についてこの国では、どこまで正しく認識されているのか疑問です。たとえば、侵略・植民地化を先導・扇動した福沢諭吉が東大教授の丸山眞男によって人間平等を主張した「典型的な市民的自由主義」者と美化され、その虚構がまだ生きている。次に、朝鮮半島を奪うための日清・日露戦争を露骨に正当化した司馬遼太郎の「坂の上の雲」が、よりにもよって昨年 NHK で放映されました。----

この二人の「罪」は、重いでしょうね。共通しているのは、近代日本の「二項対立史観」とでも呼べる発想です。丸山は福沢が「明治前期の健全なナショナリズム」を代表しているとみなし、「昭和前期の超国家主義」と対比しました。司馬は、「明るい明治」と「暗い昭和」です。両者とも、各「二項」が互いにどうつながっているのかについて説明がありま



差別・侵略主義者の福沢

---いったい、どこが「健全なナショナリズム」なのか。一八七五年に朝鮮は「小野蛮国」で、「仮に我属国と為るも之を悦ぶに足らず」とし、『時事小言』の翌年の「朝鮮の交際を論ず」で、「朝鮮国…未開ならば之を誘うて之を導く可し、彼の人民果して頑陋ならば…武力を用ひても其進歩を助けん」と述べています。

つまり、「文明」に誘導という名目で、武力による侵略が合理化されている。

----極めて危険な思想ですね。----

同時に福沢は、戦前の「滅私奉公」や「一億玉砕」論の先駆者でもある。日清戦争が始まると、「日本臣民の覚悟」なる論説で、「我国…四千万の者は同心協力してあらん限りの忠義を尽くし、…事切迫に至れば財産を挙げて之を擲（なげう）つは勿論、老少の別なく切死して人の種の尽きるまで戦ふの覚悟」を呼びかける。まさに、「暗い昭和」期の天皇制ナショナリズムの先取りそのものですよ。



----こうなるともう「思想家」というよりはアジテーターですが、特に感じるのは福沢の表現の汚さ、下劣さです。案外それは、逆に大衆受けしたように思うのですが。----

おっしゃる通りです。日清戦争や義和団戦争で日本軍が中国に出兵した

せん。丸山は福沢がすでに「暗い昭和」の時代を先取りしており、司馬は日清一日露戦争が本質的に一五年戦争と同じであったという、歴史的事実を無視しています。---特に丸山の誤った福沢論については、先生が三冊の著書で完璧に論破しておられます。その影響もあってか、本誌で連載された『マンガ日本人と天皇』の原作者である雁屋哲氏も徹底的に福沢研究をやり、来春には「福沢諭吉こそが日本を一九四五の破綻に追い込んだ元凶であり、……日本とアジア各国の関係を悪くしている張本人」であると断じた著書を刊行するそうです。----

雁屋氏の認識は、基本的に十分正しいと思います。福沢がやったことは、朝鮮と中国に対する丸ごとの蔑視・偏見の垂れ流しであり、おっしゃったように侵略の扇動でした。明治国家が朝鮮への介入を強化していく一八八〇年代前半には、「朝鮮人は未開の民……極めて頑愚…凶暴」「支那人民の怯懦卑屈は実に法外無類」「チャイニーズ……恰も乞食穢多」「朝鮮国……人民一般の利害如何を論ずるときは、滅亡こそ…其幸福は大」などと発言している。



福沢の侵略思想を表明しているのは、『脱亜論』が有名ですが一八八二年の「東洋の政略果たして如何せん」など沢山あります。そこでは「印度支那の土人等を御すること英人に倣ふのみならず、其英人をも窘（くるし）めて東洋の権柄を我一手に握らん」「日章の国旗以て東洋の全面を掩ふて、其旗風は遠く西洋諸国にまでも」などと、大英帝国に比肩する植民地獲得を主張しています。✓

際には、「チャンチャン……皆殺しにするは造作もなきこと」「支那兵の如き…豚狩の積り」などと罵る。挙げ句には「北京中の金銀財宝を掻き浚（さら）へて、…チャンチャンの着替までも引っ剥で持帰ることこそ願はしけれ。」と、略奪まで煽っています。『時事新報』は漫画や「漫言」にも力を入れていましたから、大衆にはアピールしたと思います。

----司馬の一番のひどさは、ぬけぬけと『坂の上の雲』について「事実拘束されることが一〇〇パーセントにちかい」などと自分で公言している点でしょうね。----あれは、逆に「始めがウソなら終わりもウソ」と言える小説ですよ。

NHK が昨年一月にスタートさせたドラマにもありましたが、福沢について「あしがこの世で一番偉いと思う人」などと主人公に言わせている。しかし、福沢は自由民権派から「法螺を福沢、嘘を諭吉」と侮られ、元外務省勤務の吉岡弘毅から彼のアジア侵略路線は「我日本帝国ヲシテ強盗国ニ変ゼシメント謀ル」道のりであり、「不可救ノ災禍ヲ将来ニ遺サン事必セリ」ときびしく的確に批判されていました。

----その点では福沢を美化・擁護した丸山など戦後の「進歩派」も同罪ですが、司馬によれば、日清・日露戦争は「祖国防衛戦争」なのだそうです。----

司馬は日清戦争について「清国や朝鮮を領有しようとしておこしたのではなく、多分に受け身であった」と

し、あるいは「ロシアが…極東での侵略道楽をはじめたがために日露戦争がおこった」などと書く。これでは、どうして韓国強制併合にまで行き着いたのかという歴史経過が説明つきません。この小説には、「日本はこの（日露）戦争を通じ、前代未聞なほどに戦時国際法の忠実な遵奉者として終始」したのだ、「日本政府の要人のほとんどが戦争回避論者であった」のだと、いくつも大ウソが出てきますね。

歴史の無反省が虚構を生む

『坂の上の雲』の致命的な欠陥は、日清・日露戦争を舞台としながらも、①江華島事件、日朝修好条規、壬午（じんご）軍乱、甲申（こうしん）政変などの朝鮮開国から日清戦争に至るまでの諸事件 ②日清戦争のきっかけとなった朝鮮王宮占領や戦争中の旅順住民大虐殺、戦争後の朝鮮王后・閔妃（びんぴ）殺害、雲林虐殺事件 ③三次にわたる日韓協約の武力を背景にした押し付けといった、「明るい明治」のイメージとは逆の数々の歴史上の犯罪的行為を、すべて意図的に隠している点です。それによって、朝鮮侵略と植民地化への道のりが日清・日露戦争であったという本質を見えなくしている。

----改めて丸山の福沢諭、司馬の日清・日露戦争論という壮大な虚構が、韓国強制併合に至る歴史を正しく理解する上で極めて大きな障害になっているという感を強くします。----

やはり根底には、戦後において戦争責任と植民地支配責任の問題がしっかり論議されなかったという点があるのでしょうか。ヒトラー、ムッソリーニと並ぶ世界の「三大巨悪」と呼ばれた昭和天皇の戦争責任も裁かれなかった。侵略した側は、侵略された側に立って考えるのは難しいのでしょうか。だからこそアジア蔑視・侵略扇動の福沢を丸山のように「民主主義の先駆者」として都合よ

く美化してみたり、司馬のように堂々と「日本は維新によって自律の道を選んでしまった以上…他国（朝鮮）の迷惑の上においておのれの国の自立をもたねばならなかった」などと放言する人物が、「国民作家」と呼ばれているのでしょうか。

----韓国や北朝鮮の国民が、司馬のこんな記述を読んだら「まだ日本人はこんなことを言っているのか」と怒るでしょうね。しかも戦後の日本政府は、韓国強制併合の責任者である伊藤博文を紙幣に印刷して隣国の憤りを買いましたが、それにかわって、今もまだ福沢が最高額面紙幣に印刷されている。----

日本軍による性奴隷（「従軍慰安婦」）問題に取り組んできた尹貞玉（ユン・ジョンオク）さんが、「日本の一万円札に福沢が印刷されているかぎり、日本人は信じられない」とつねづね語っていますが、当然でしょう。こうした発言は彼女だけではありませんが、問題は福沢がアジアの近隣諸国からそろってこのように批難・批判・憎悪されているのに、日本人がなぜそれを知らないかにあります。韓国強制併合一〇〇年を迎えた今、アジアと日本の歴史認識の深い溝と亀裂を埋める努力の必要性を改めて痛感せざるをえません。

八月五日、長野県南牧村の山荘にて。

聞き手・まとめ／編集部・成澤宗男

やすかわじゅのすけ

不戦兵士・市民の会副代表理事。

本誌 2000 年 9 月 8 日号で「福沢諭吉

を透かしてみれば」を執筆。

著書に「福沢のアジア認識」「福沢と丸山眞男」など。

（撮影／編集部）

週刊金曜日 2010.8.27(812号)より転載

金曜日



上記の安川インタビューに対し評論家の佐高信氏は週刊金曜日 814 号（2010.9.10）の「[風速計](#)」で次のように批判した。

敵から見たら（佐高 信）

八月二七日号の安川寿之輔（名古屋大学名誉教授）の「福沢諭吉、丸山眞男」批判は「敵から見たらどうなのか」という視点が決定的に欠けている。「独立自尊」ならぬ「孤立自尊」で生きていける学者だからだろうか。そこで安川は丸山と司馬遼太郎を一緒にして批判しているのだが、たとえば三島由紀夫は安岡正篤への手紙の中で、丸山に「左翼学者」のレッテルを貼り、「大衆作家の司馬遼太郎」を「まじめな研究態度が見え」て心強いと讃えている。つまり、丸山を敵視する一方で、司馬をわが友とし、区別しているのである。

安川はきわめて単純に、福沢を「民

主主義の先駆者」として美化したと丸山を断罪しているが、三島から「左翼学者」と難じられた丸山を全否定して、反ファシズムの隊列など組めるのか。大体、そうした悪罵を浴びながらも、たとえば安保闘争に参加した丸山の感じる風圧を理解せずして、統一戦線を組むことなどできないだろう。三島が安川を問題にすることはない。私が言いたいのは、標的にされる者に対して、敵以上に激しい侮蔑の言葉を投げつけて何の意味があるのかということである。

福沢に侵略主義と攻撃される面があったことを私は否定しない。しかし、同時に、戦争中に福沢は“鬼畜米英”の思想家として排撃されたことも忘れずに想起するのでなければ公平を欠くだろう。

また、悪名高き「脱亜論」にしても、福沢はそれを唱えながら、朝鮮独立

運動のリーダーである金玉均を、自らの身に危険が及ぶのを覚悟で助けた。当時の日本の政府はそれを理由に福沢を捕えようとしたし、事実、福沢の弟子の井上角五郎は投獄され、福沢との関わりを白状せよと迫られている。

どうしても学者は文献によって判断しがちなもので、現実の行動を追うことはおろそかになる。また、実社会にもまれないので自分だけが正しいと独断的な主張を声高に繰り返すようになる。

私は安川に“天上天下唯我独尊居士”というニックネームを進呈したくらいだが、それではやはり、反ファシズムの幅広い統一戦線は組めない。全否定ではなく部分否定、全肯定ではなく部分肯定のみが、マスターベーション的頑固な独善の殻を打ち破るのだと私は思う。

この佐高信氏の批判に対し反論が掲載された。

論争 議論は理性的に 雁屋 哲

(かりやてつ・68歳、まんが原作者、エッセイスト)

本誌八月二七日号に、成澤宗男氏による安川寿之輔・名古屋大学名誉教授に対するインタビュー記事「虚構の『福沢諭吉』論と『明るい明治』論を撃つ」が掲載された。それについての文章を、本誌九月一〇日号に本誌の発行人である佐高信氏が、「風速計」に書かれた。

八月二七日号のインタビュー記事の中で私の名前が上げられていたので、一言口を差し挟ませていただく。

佐高信氏の書かれた文章は近来稀に見る文章である。氏が書かれた五〇行の文章のうち、一六行が、安川氏に対する根拠と論拠のない誹謗に使われている。一つの文章の三分の一近くを、そのような文章で占める例は他の雑誌・新聞では有り得るが『週刊金曜日』で目にするのは、創刊以来の定期購読者の私として初めてのことである。

佐高氏は、安川氏が述べた「福沢諭吉の論は『文明』誘導という名目で武力による侵略が合理化されている」「アジア蔑視・侵略扇動の福沢を丸山のように『民主主義の先駆者』として都合よく美化したり……」などの点に反論するべきであった。

しかし、佐高氏は、三島由紀夫を持ちだして論点をずらしている。安川氏の議論の主要点を攻めないのでは議論にならない。さらに佐高氏の文章の中には、見逃せない過ちが有る。①安川氏は丸山眞男の福沢諭吉に関する評価を批判しているが、「敵以上の激しい侮蔑の言葉を

投げつけて」はいない。学問上の批判と侮蔑は別物である。丸山眞男も安川氏の批判を侮蔑と取るほど幼稚ではなかっただろう。②福沢諭吉と金玉均の関係について佐高氏には事実関係の誤認が有る。

金玉均は宮廷内での権力を争う「開化派のリーダー」であり、朝鮮独立運動とは関係がない。金玉均と朴泳孝は、自分たちが権力を握るために起こしたクーデター、甲申の変に失敗して日本に逃げた。

この件に関しては福沢諭吉の弟子、井上角五郎が、次のように言っている。「金・朴の一挙については先生はただに、その筋書きの作者に止まらず、自ら進んで役者を選び役者を教え又道具立てその他万端を指図された事実が有る」

福沢諭吉は、金玉均に軍資金を与え、武器をそろえ、壮士という暴力団を助っ人として用意し、金玉均のクーデターを指図したのである。

福沢諭吉が『脱亜論』を書いたのは、金玉均のクーデターが失敗した後である。『脱亜論』には自分が手助けをしたクーデターの失敗が色濃く影響している。佐高氏には、金玉均という人間と、『脱亜論』が書かれた時期と事情に対して誤認が有る。

『週刊金曜日』では、他人を非難する際には、確実な事実を基に、誠実に論を組立てて行ってほしい。インターネットで根拠のない誹謗が飛び交っている現在、『週刊金曜日』は言論の鑑なるべきだ。

週刊金曜日 2010.10.1(817号)より転載

雁屋哲の美味しんぼ日記

報金曜日

週刊金曜日 2010.9.17(815号)の論争欄に次のような投稿があった。全文は <http://goo.gl/Img5> で

福澤諭吉はアジア侵略の先導者であり差別蔑視者であったのか

渡井啓之 (わたい ひろゆき・72歳)

八月二七日号の安川寿之輔氏へのインタビュー記事に、いささか戸惑いを感じた。(略) 近年、井田進也氏をはじめとして福澤諭吉研究者たちが『時事新報』の社説や漫言が福澤の直筆であったかどうかを明らかにした上で、福澤の思想を研究しようとしていると管見する。

かりに福澤が朝鮮蔑視者であったとして、数多くの朝鮮人留学生を慶應義塾に招き、朝鮮の文明化(近代化)を支援しようとしたこと、八月二七日号一七ページにある「甲申政変」での金玉均ら亡命者を福澤が保護していたこと、また故・石坂巖慶應大学名誉教授によれば一八九六年から九八年一月までの福澤の家計簿には朝鮮人のために約一万五〇〇〇円が支出されている記録があること(この貨幣価値は一説には現在の一万倍)、これらの事柄を、(これも法螺だ、嘘だといわれれば何ともいえないが) どう解釈すればよ

いのか。(略) 時と場所を弁(わきま)えよというのが、福澤の言論のひとつの軸になっていたように思われる。したがって現実を直視することによって言論にかなりの曲折も見られよう。当時の自由民権運動に批判的であったが故に民権運動側からは「法螺を云々……」の惹句を投げかけられたであろう。

しかしながら韓国併合一〇〇年の特集として、貴誌が表紙にその惹句を挙げ、「真意」と大見出しにするその真意とは何であるのだろうか。他誌に見られるような「売らんかな」のコピーとは考えたくない。(略)

<全国シンポジウム> へのお誘い 松山から「坂の上の雲」を問う

大韓帝国強制併合100年 愛媛大学学生祭行事

詳細はこちらをご覧ください → <http://goo.gl/65UR>

昨年、NHKドラマ『坂の上の雲』の第1部が放送され、今年と来年には第2部・第3部が放送されます。

大々的な宣伝をはじめ、非常にセンセーショナルな放送のしかたに、違和感や不安や、危惧を抱いている方もおられるかと思ひます。

また、原作である司馬遼太郎の『坂の上の雲』についても、その歴史認識や朝鮮・中国・ロシアの描き方について、疑問の声があります。<シンポジウム>では、これら『坂の上の雲』の抱える問題に対して、多角的に光をあてていきたいと考えています。

2010年11月13日(土) 13:30~16:30

愛媛大学 城北地区<グリーンホール> 松山市文京町3番

詳細はこちら <http://goo.gl/3VIY>

入場無料 資料代(一般) ¥1000円

プログラム 詳細は <http://goo.gl/1Wwo>

■ 学生代表挨拶・「韓国併合」100年に思うこと

■ シンポジウム

安川寿之輔 さん・「明るくない明治こそが『暗い昭和』につながったー『坂の上の雲』と福沢諭吉ー」

醍醐聰さん・「日本は朝鮮の独立のために日清戦争を戦ったのかー伊藤博文はよりましな帝国主義者だったか」

井口和起 さん・「日露戦争は祖国防衛戦争だったかー歴史研究者の立場からー」

高井弘之 さん・「司馬は明治日本像をどうやってつくったかーその『からくり』」

■ 報告・松山市・『坂の上の雲』のまちづくり
(武井 多佳子 さん)

13日(土)夜 全国交流会

14日(日)午前 全国相談会

午後 フィールドワーク「坂の上の雲ミュージアム」の見学など

<全国シンポジウム> 松山から「坂の上の雲」を問う
実行委員会 学生代表/法文学部三回生・的場竜一
共同代表/西原一宇

お問合せ/090-9736-6368 (愛大生・的場)

090-2781-7055 (一般・山中)

Eメール sakakumo_wotou@yahoo.co.jp

参加申込み締め切り; 10月31日

(道後友輪荘への宿泊を希望される方は、10月20日
締め切り)

BBC 放送と英国視聴者運動から見る

放送の「政府からの独立」と独立放送委員会とは
門奈 直樹氏 (京都産業大教授) 講演会(3/23)から

イギリスの放送行政と日本との違い

● 予算は・・・日本は国会承認、イギリスは国会承認不要。
BBC が責任を負うのは、受信料支払い者に対してのみ。

● BBC の放送局免許「設立特許状」は 10 年ごとに更新
され、その都度「放送白書」で国民に問う。

約三年をかけ、視聴者、有識者らとの意見交換、議論
の結果、まとめ上げられた「放送白書 2007~2016」
が BBC の経営方針、活動内容を規定する。これは全世
帯に配布された。

その表題は、「強い BBC、政府からの独立」。これは、
視聴者運動のスローガンではなく英国政府が出した白
書の表題である。

● 「放送白書」の中身は・・・BBC が歩む方向を「市民
ジャーナリズムの確立」と規定。

その意味は、「市民を放送
活動のパートナーと位置
づけ、市民との間で価値
観を共有するために、市
民に対して完全にオーブ
ンなジャーナリズムをめざす」というもの。

また白書は「BBC・公共の価値の創造」を盛り込んだ。

「公共の価値」とは、次の 5 項目。

① 民主的価値 ② 文化的価値 ③ 教育的価値 ④ 共生
社会と共同体維持の価値 ⑤ グローバルな価値

● 独立規制機関(独立行政委員会)としての Ofcom
(Ofcom=英国放送通信庁)

(参考:FCC(米) CSA(仏) 州メディア監督機関(独)
KCC(韓国); すべて政府から独立した機関)

● 基本理念=権力の介入を排除

「イギリスのメディア成り立ちの歴史は『コーヒーハウ
ス』から始まり、デイベート・ディスカッションの発
展。多様な意見を保証するのがマスメディアの役割」
「日本の新聞・放送の始まりは、政府の広報・宣伝のた

めの国策として作られた。」

● 放送・通信免許の付与・没収権限、免許更新審査
(含む BBC)

● 番組内容の規制

● スタッフ約 800 人 政府関係者は一切入っていない。
会長らの任命は公募制、政治的独立が保証されている。
地域代表が多い。また各種の政策立案や見直しの際に広
く意見を募集することで市民/消費者の参加が確保され
ている。

これらは「公職任命コミッショナー制度」により「公職
募集ページ」から応募できる。→ <http://goo.gl/iulZ>
公人任命委員会コードによるガラス張り選考。

● 活動費用は免許料+政府交付金。

● 視聴者運動の現状は

3つの大きな団体

「新聞と放送の自由を守る市民運動」
(1979 年設立)・・・英国人口の 15
~16%組織

「視聴者の声」・(1983 年設立)

「番組選択の幅と質を高める市民運動設立」(1988 年)

● その目的は:「多様で民主的かつ説明責任をもつメデ
ィア政策を促進するため」

Ofcom もウォッチングの対象とする。

● その財源は: 会費と政府・自治体からの公的補助金、
政府が職員も派遣している。

● その活動は:「メディア・マニフェスト(メディア宣
言)」を発表。10 項目の基準でメディアをウォッチン
グ。各種のメディアを市民の代弁者となるよう位置づ
けるために新しい「メディアの自由」観を確立する活動
をしている。

NHK 問題を考える会(兵庫) ニュース No.16,

NHK 問題京都連絡会 ニュース No.16 より

参考: 世界の放送通信独立規制機関の現状

(NHK 2010/03)

: 新聞通信調査会報 第 529 号 (2008/05)

<http://goo.gl/waEi>



韓国併合 100 年をめぐる両国若者の 討論番組を視て 醍醐聰のブログから

意見の開き以前の歴史への知見の格差

昨日は百年前に韓国併合条約が締結された日である。NHKは8月14日に「日本の、これから ともに語ろう 日韓の未来」と題して、日韓の若者がスタジオで討論する番組を放送した（8月7日録画）。

そのなかで、出演した日本のある若者が韓国併合について、「韓国と日本は、同じ大日本帝国の一員として、一緒に英米と戦った戦友だ。」「韓国併合のときは、韓国人を虐殺したわけではなく、帝国主義の時代でやむを得ずやっただけだ」と発言した。これに対し、番組に出演していた崔洋一映画監督は、そうしたイデオロギーが当時の日本を支配していたことを認めながらも、そのために韓国併合があったというのはとんでもない史観だと指摘し、「36年間にわたる植民地支配がそれによって肯定されるという考え方では、基本的に歴史を語る資格がない」と批判した。

放送後、この崔発言をめぐるネット上で「言論封殺だ」という反響が起こっているのを知った。しかし、当の若者がネット上の掲示板に書き込んだ記事によると、放送ではカットされたものの、別の日本の若者から、「日本と韓国は過去に恋人関係にあり、日本が浮気したから韓国が怒っている」という発言もあったそうだ。

上の崔監督の発言はこうした若者の発言を受けて出たそうである。

もっとも、番組全体を視た限りでは、上の2人の発言は番組に出演した日本の若者の韓国併合に関する歴史認識の中ではごく少数意見と思われた。事実、他の日本人からは、「当時としては止むを得ずやったというのなら、やむを得ず原爆を投下したという言い分に反論できないのではないか」という発言があった。



しかし、それでも私は、出演した日韓の若者の歴史に関する知見の落差を見せつけられた思いがした。多くの韓国人は、「日本の若者は〔歴史を〕知らなさすぎる」、「過ちを犯したなら、お金ではなく、先ず謝ることだ。」「そんなことがあったの、と言われると頭にくる。日本が同じ目に会ったらどう思うのか」と発言していた。

他方、日本の若者はというと、

①「国と国の関係を待っているのではなく、ネガティブな方へ持っていくのではなく、個人のレベルでどうすべきかを考える方がよい」、「お互いに良いところを認め合っていけばよいのではないか」といった、あたりさわりのない一般論か、

②「日本はもう十分謝罪したと思う。これ以上謝罪しても韓国人の反日は多分変わらないと思う」、

③「謝罪というが、謝罪だけで済む問題ではなく、外交や補償の問題につながっていくから、難しい点がある」といった日本の歴代の保守派政治家の発言のコピーのような発言が目立った。

日本の謝罪をめぐる日韓の若者の認識の落差

②の「もう十分謝罪した。これ以上何を求めるのか」という発言についていえば、出演した数人の韓国の若者から、「謝罪をしたあとで、それを覆すような発言が政治家から繰り返された。これでは心からの謝罪とはいえない」という反論があった。正論である（注1）。番組に出演した日本の若者がこの反論にどう応答するか見守ったが、結局、何も出なかった。

（注1：日本の歴代政府・与党要人の発言）

*「わが国は、遠くない過去の一時期、国策を誤り、戦争への道を歩んで国民を存亡の危機に陥れ、植民地支配と侵略によって、多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大の損害と苦痛を与えました。私は、未来に誤り無からしめんとするが故に、疑うべくもないこの歴史の事実を謙虚に受け止め、ここにあらためて痛切な反省の意を表し、心からのお詫びの気持ちを表明いたします。」（1995年8月15日、村山談話）

*「植民地時代に日本は韓国に良いこともした。……日韓併合は強制的だったとする村山富一首相の発言は間違っている。日韓併合が無効だったと言い出せば、国際協定は成り立たない。当時は国が弱いとやられた時代だったんだから、やむを得ないことだ。」

（1995年10月11日、江藤隆美・総務庁長官）

*「当時の日本には公娼制度があったから、従軍慰安婦といってもそれほど驚かない。公娼になった人はお金のために行った」

（1997年1月24日、梶山静六・官房長官）

*「（従軍慰安婦問題を）教科書に載せるのは疑問だ。強制性があったかなかったかはっきりしない」

（1998年7月6日、中川昭一・農水相）

*「創氏改名は当時の朝鮮人が望んで始まった」（2003年5月31日、麻生太郎・自民党政調会長）

*「日本は明治維新ができ、近代化したが、中国や朝鮮半島は近代化できなかった。日本は植民地を広げる側で、中国や朝鮮半島は植民地として侵略される側になったというのは、歴史的な必然だった」

（2010年3月27日、枝野幸男・民主党幹事長）

③の発言についていうと、謝罪するかどうかは謝罪を必要とする侵略行為、不当な植民地支配があったのかどうか（正当な植民地支配などもともとないが）という事実認識で決すべき問題である。この点でいえば、番組の中で岡本行夫氏（元首相補佐官）が日本の若者に向かって



論したように、1910 年以降、日本は韓国人に名前、言葉、文化を捨てさせ、民族のアイデンティティを奪ったというのが厳然たる事実である。こうした事実認識をスキップして「謝ると金を要求されかねないから、不用意に謝るべきではない」という発言は、まずもって人間あるいは民族の尊厳の回復を求める韓国人の要求と誠実に向き合わず、それを金銭の要求の口実かのように先読みするのは野卑な発想と言わなければならない。

①の国と国の関係か、個人と個人の関係かについていえば、国家の責任と個人の責任を区別して議論しなければならないのは当然である。しかし、だからといって国家としての日本の戦後責任に日本人が個人として無関係であるわけではない。侵略・植民地支配責任を宣言した村山談話以降もそれに逆行するような発言を繰り返した日本の政治家を「選良」として選んだのは日本の有権者である。自らが選んだ政治家の言動を注視し、支持なり批判なりをしていくのは有権者の務めである。こうした有権者としての政治参加を抜きにして、民間ベース、個人ベースで国際交流に励めばよいというものではない。



今回の討論番組を視て私は、学校教育の場だけでなく自分の親や祖父母らから、日本軍が植民地統治時代の朝鮮で何をしたかを伝え聞いて育った韓国の若者（番組の中でも、祖母から従軍慰安婦のことを聞いた、祖父から日本軍に徴用されてフィリピンへ行かされたという話を聞いたと発言する韓国の若者がいた）と、学校教育の場で現代史を学ぶ機会をほとんど持たないばかりか、自分の親や祖父母らからも日本軍が植民地・朝鮮で何をしたかを伝え聞く機会をほとんど持たないまま育った日本の若者との歴史に関する知見の落差を見せつけられた思いがした。

論す相手を間違えた准教授

ところで、この番組に出演した京大准教授の小倉紀蔵氏は、「歴史にはどんな考え方もありうる。正さないといけないのは、間違った事実に基づいて自分の歴史観を構築したときだけだ」と発言し、「日本が帝国主義の時代に韓国を併合したのはやむを得なかった」と発言した日本の若者を批判した崔監督の発言を「言論封殺」と反論していた。確かに、「歴史を語る資格がない」という崔監督の発言は適切さを欠いていたと思えるが、その趣旨は、誤った事実認識を基に歴史観を語ることを諫めるということだったと思える。

この点でいうと、前記の日本の若者の「韓国と日本は、同じ大日本帝国の一員として、一緒に英米と戦った戦友

だ」という発言はまさに小倉氏が正さないといけないと述べた、「間違った事実に基づいて自分の歴史観を構築した」標本のようなものである。自分の発言に忠実であるなら、小倉氏はたしなめる相手を間違えたということになる。崔氏と小倉氏のやりとりの後、岡本行夫氏は日本の若者に向かって、上記のように、1910 年以降、日本が韓国人に名前、言葉、文化を捨てさせ、民族のアイデンティティを奪ったという厳然たる事実を直視するよう諭していた。ローソン社長の新浪剛史氏も「謝罪したというにしては教育の場にそれが活かされていない。縄文式時代のことを教えるのもいいが、もっと現代史を教えるべきだ」と発言したのは卓見だった。それに比べ、「韓国人の世界観とは一体どういうものなのか。日本と朝鮮半島の関係はどうあるべきか。日本・中国・朝鮮の文化・文明的関係はどのようなものなのか。どのようにすればわれわれは「東アジア」を構築することができるか」を研究しているという小倉氏の的外れな発言がよけいに目についた。

希望を託したい日本の若者の発言

今回の討論番組に出演した数人の若者の発言が日本の若者の歴史認識の縮図だと速断するつもりはない。ただ、8 月 20 日に日韓両国の学生約 50 人が参加して北杜市高根町で開かれた韓国併合 100 年をめぐる意見交換会（主催：早稲田大、高麗大）でも韓国の学生の発言が目立ち、「もう少し激しく意見をぶつけ合いたかった」[高麗大生代表の金承賢（キム・スンヒョン）]という感想が聞かれたという。また、ある日本の女子学生は「日本は問題意識が低い。個人個人が考えを持つことが大事」と説明したとのこと。

(asahi com 2010/8/23) → <http://goo.gl/QsR1>

それでも私はこの番組で出た日本の若者の次のような発言に希望を託したいと思う。と同時に、彼ら彼女らを現代史から遠ざけてきた日本の教育の責任、大人自身の歴史認識の貧困、天皇制や従軍慰安婦問題などを避けてきた臆病なメディアの体質、を正す社会の責任を痛感させられた。

「3 年間、韓国で韓国の人といっしょに歴史を勉強したが、韓国人はみんな日本は謝罪をしたとは受け取っていないことを思い知らされた。さきほど、知ることと謝罪することという発言があったが、私はまず知ることだと思ふ。その上で謝罪する必要がないという人がいるなら、それでよいと思う。しかし、私は歴史を知って心が痛かった。そこから生まれる謝罪が本当の謝罪だと思う。」

「韓国の人と歴史のことで話をしようとしても太刀打ちできなかった。」

もっと勉強しようと思った。」

